不登校新聞

発行 特定非営利活動法人 全国不登校新聞社

■「不登校新聞」とは
1998年に日本で初めて創刊した不登校の情報・交流紙。不登校を原点としながら、広く子どもに関わる問題や社会のあり方について考えたい、という市民らで創刊した。創刊前年の97年9月1日前後に発生した中学生の自殺も創刊のきっかけになった。編集方針は創刊以来「当事者視点」。

■東京編集局 〒114-0021
北区岸町1-9-19
TEL 03-5963-5526
FAX 03-5963-5527
E-mail tokyo@futoko.org

毎月1日・15日発行
購読料・月820円
◎カード決済(毎月契約)
◎銀行自動振込(半年契約)
【郵便振込先】
加入者番号 00100-6-22077
加入者名 全国不登校新聞社

子どもの自己決定を
最大限に尊重してほしい

親だっていきなり達観できるわけではないので、最初はしぶしぶでもかまいません。しかし、まずは「受容」の入り口に立たないと中に入ることができません。これこそ、ソーシャルワークの出発点です。

第2関門は「焦る気持ちを抑えられるか」です。親はえてして「原因探し」に奔走します。というのも、原因を特定して取り除ければ、学校に行けるようになるかもしれないと思うからです。

しかし、焦って「原因探し」をしてはいけません。マイナスのメッセージを子どもに送ることになりうるからです。というのも、「原因探し」とは、「現状をよし」としていないがゆえの行動です。たとえば、テストで100点を取った子どもに「あなたはなぜ100点が取れたの?」なんて、しつこく聞いたりしませんよね。つまり、焦って「原因探し」に走るのは、言葉では子どものことを否定していなくても、親にとって好ましからざる状況にあるんだ、ということを暗に示すことになるわけです。ここで親に求められるのは「非審判的態度」です。あれこれ詮索せず、叱りつけたり、説得したりもしない。こちらの価値観を押しつけないよう、子どもを「丸ごと受けとめる」ことが非常に大切です。

"今の自分"を自覚したうえで

第3関門は「子どもが元気になると心がざわつく、ここをコントロールできるか」です。

わが家の場合を例に挙げますが、長女が「父親のドアを閉める音がつらく、耳に残っている」と話してくれたことがあります。親だって気持ちが揺れることもありますし、丸ごと受けとめるというのは、そうたやすいことじゃありません。溜まった不満から無意識のうちに、いつもより強くドアを閉めることもあったんだと思います。長女からすれば、それが自分を責める音に聞こえたんでしょう。

「本当は学校に行ってほしい」という親の思いは、隠そうと思っても隠しきれるものではありません。このとき大切なことは、「どう隠すか」ではなく「今の自分はそういう自分なんだ」と気づくことです。それを自覚したうえで子どもと関わる。第3関門ではそうした「統制された情緒関与」が重要になります。

第4関門は「子どもの進む道は一人ひとりちがうことを受けいれられるか」です。先ほど「受容」が出発点だとお話しましたが、それがなぜ難しいのかと言えば、親のなかには「できるだけみんなと同じようにすごしてほしい」という気持ちがあるからです。

長女の高校進学に私がこだわったのも、そうした思いからです。しかし皮肉にも、その思いをいったん横に置くことで、私たち親子はおたがいに楽になったんです。バイステックが7つの原則のなかで唱えている「個別化」とは「一人ひとりのちがいを尊重しよう」ということです。不登校になると、社会のレールから外れてしまったと見られがちですが、「外れた」と考えるか、「いろんな道がある」と考えるかで、物の見え方も将来の見通しも大きく変わってくるのです。

第5関門は「子どもの人生は子どものものと腹をくくれるか」です。長女は4年制の通信制高校を5年かけて卒業しました。週1回のスクーリングもレポート提出も本当にたいへんでした。しかし、「高校は卒業しておこう」という彼女なりの思いがあったのです。アルバイト探しで職業安定所をまわっていたときに目にした求人情報を見て、そうした求人情報を見て、そう自分で考え、決めたのです。

長女が自分で見て、考えて、判断して、納得したからこそ、やり遂げることができたのだと思います。つまり、最終的な決定を本人に任せるということが大切なんです。子どもに必要な情報提供はするし、相談されたならばいっしょに考えますが、親は子どもの人生を歩むことはできません。「子どもの人生は子どものものと腹をくくり、子どもの自己決定を最大限に尊重するという関わりこそ、親が越えるべき最後の関門だと考えています。

(抄録編集・小熊広宣)

バイステックの7つの原則

原則①「クライエントを個人としてとらえる」(個別化)
原則②「クライエントの感情表現を大切にする」(意図的な感情表現)
原則③「クライエントに接する人は自分の感情を自覚して吟味する」(統制された情緒関与)
原則④「クライエントを丸ごと受けとめる」(受容)
原則⑤「クライエントを自分の価値観に基づいて非難しない」(非審判的態度)
原則⑥「クライエントの自己決定を促し尊重する」(自己決定の尊重)
原則⑦「クライエントの秘密を保持して信頼感を醸成する」(秘密保持)

■□書籍紹介□■

文芸社(TEL/0120-29-9625)
700円(税別)

専門知識から親の気持ちまで凝縮

今号6・7面のご紹介した野村俊幸さんの近著です。講演抄録でお話されていた野村家の不登校体験談について、具体的なエピソード、親の気持ちなど、さらにていねいに書かれています。

また、不登校・ひきこもりについて、親はどう対応したらいいのか、30項目に渡るテーマをQ&A方式で紹介しています。

さらに、「先生にお願いしたいこと」として挙げられた10項目については、学校とやりとりする際、親が知っておくとタメになる知識としても、示唆に富んだ1冊です。 (小熊広宣)

【インフォメーション】

相談、随時受付中!!

野村俊幸さんは、北海道函館市を中心に、親の会やサポートステーションにて、不登校ひきこもりの当事者やその親の相談支援などをされています。本抄録を読んで気になったことや相談したい点などありましたら、下記連絡をご参照のうえ、野村さんにご連絡いただければさいわいです。

＊ ＊ ＊

携 帯/090-6261-6984
メール/tnomura@sea.ncv.ne.jp